資料５

審　議　事　項

	件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
Ⅰ　審議事項等						
１．委員会関係						
提案1	（分野別委員会） (1)委員会及び分科会委員の決定（【委員会及び分科会】新規1件、追加１件【小委員会】新規1件）	各部部長	B(7-8)	分野別委員会における委員等を決定する必要があるため。	各部部長	内規18条
２．提言等関係						
提案2	提言「CT検査による画像診断情報の活用に向けた提言」について日本学術会議会則第２条第３号の「提言」として取り扱うこと	臨床医学委員会委員長	C(1-28)	臨床医学委員会放射線・臨床検査分科会において、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 **※第二部査読**	臨床医学委員会放射線・臨床検査分科会　井上優介委員長、青木茂樹幹事	内規3条1項
提案3	報告「地名標準化の現状と課題」について日本学術会議会則第２条第４号の「報告」として取り扱うこと	地球惑星科学委員会委員長、地域研究委員会委員長	C(29-60)	地球惑星科学委員会IGU分科会及び地域研究委員会地域情報分科会において、報告をとりまとめたので、関係機関等に対する報告として、これを外部に公表したいため。 **※第一部、第三部査読**	地球惑星科学委員会IGU分科会地名小委員会 岡本耕平委員長、渡辺浩平委員	内規3条1項
３．協力学術研究団体関係						
提案4	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	会長	B(9-10)	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①京都滋賀体育学会 ②グローバル人材育成教育学会 ③日本教科内容学会 ④日本子ども学会 ⑤日本赤外線学会 ⑥日本ポリアミン学会 ※令和元年8月29日現在2,049団体（上記申請団体を含む）	三成副会長	会則36条1項

４．その他のシンポジウム等

提案5	公開シンポジウム「公認心理師の養成について」	心理学・教育学委員会委員長	B(11-12)	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会健康・医療と心理学分科会 日時：令和元年9月13日（金）13:20～15:20 場所：立命館大学大阪いばらきキャンパス **※第一部承認**	－	内規別表第1
提案6	公開シンポジウム「政治における「嘘」の問題」	政治学委員会委員長	B(13-14)	主催：日本学術会議政治学委員会政治思想・政治史分科会 日時：令和元年10月5日（土）13:15～15:15 場所：成蹊大学 **※第一部承認**	－	内規別表第1
提案7	公開シンポジウム「災害を科学と語り継ぎ未来を生きる～伊勢湾台風の記憶をよみがえらせ、南海トラフ地震津波に備える」	科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会委員長、土木工学・建築学委員会委員長	B(15-16)	主催：日本学術会議科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会、日本学術会議土木工学・建築学委員会IRDR分科会 日時：令和元年10月20日（日）10:00～11:30 場所：名古屋コンベンションホール302会議室 **※第三部承認**	－	内規別表第1
提案8	公開シンポジウム「岡崎「性暴力事件」から見えてきたもの―学術に何ができるか―」	社会学委員会委員長、法学委員会委員長、史学委員会委員長	B(17-18)	主催：日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会、ジェンダー政策分科会、法学委員会ジェンダー法分科会、史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会 日時：令和元年10月20日（日）13:00～17:00 場　所：日本学術会議講堂 **※第一部承認** ※シンポジウムの開催自体は6/27幹事会にて承認済。今回は主催を追加する等の変更を加えたもの。	－	内規別表第1
提案9	公開シンポジウム「人工知能時代の放射線画像診断・病理診断と専門医のあり方」	臨床医学委員会委員長	B(19-20)	主催：日本学術会議臨床医学委員会放射線・臨床検査分科会 日時：令和元年10月28日（月）13:00～17:30 場所：日本学術会議講堂 **※第二部承認**	－	内規別表第1
提案10	公開シンポジウム「百寿社会に生き残るための情報学的生存技術」	情報学委員会委員長	B(21-22)	主催：日本学術会議情報学委員会環境知能分科会 日時：令和元年11月2日（土）13:00～17:00 場所：芝浦工業大学芝浦キャンパス3階301教室 **※第三部承認**	－	内規別表第1
提案11	公開シンポジウム「国連の持続可能な海洋科学の10年-One Oceanの行動に向けて」	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長	B(23-25)	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学分科会、地球惑星科学委員会SCOR 分科会 日時：令和元年11月6日（水）9:30～17:00 場所：笹川平和財団海洋政策研究所国際会議場 **※第二部、第三部承認**	－	内規別表第1

提案12	日本学術会議北海道地区会議主催講演会「スポーツと学術（仮題）」	科学者委員会委員長	B(27-28)	主催:日本学術会議北海道地区会議 日時：令和元年11月9日(土) 13:30～17:00 場所：北海道大学学術交流会館小講堂	ー	内規別表第1
提案13	公開シンポジウム「高等学校への心理学教育の導入をめぐって」	心理学・教育学委員会委員長	B(29-30)	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会心理学教育プログラム検討分科会 日時：令和元年12月7日（土）13:00～17:00 場所：慶應義塾大学三田キャンパス第1校舎121教室 **※第一部承認**	ー	内規別表第1
提案14	公開シンポジウム「政治への「参画障壁」をいかに乗り越えるか」	政治学委員会委員長	B(31-32)	主催：日本学術会議政治学委員会政治過程分科会 日時：令和元年12月21日（土）14:00～17:00 場所：明治大学駿河台キャンパス・リバティタワー1123教室 **※第一部承認**	ー	内規別表第1
提案15	公開シンポジウム「次世代統合バイオイメージングと数理の協働の展望」	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、農学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、薬学委員会委員長、情報学委員会委員長	B(33-34)	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同IUPAB分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会 日時：令和2年3月23日（月）13:00～17:40 場所：日本学術会議講堂 **※第二部承認**	ー	内規別表第1

５．後援

提案16	国際会議の後援をすること	会長	－	以下の国際会議において、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①第8回アジア植物病理学学会 主催：日本植物病理学会 期間：令和2年9月15日(火)～18日(金) 場所：つくば国際会議場（茨城県つくば市） 参加予定国数：18か国・地域 申請者：日本植物病理学会会長　拓植尚志 **※国際委員会8月26日承認、同国際会議主催等検討分科会8月16日承認** ②科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム第16回年次総会 主催：特定非営利活動法人STSフォーラム 期間：令和元年10月6日(日)～8日(火) 場所：国立京都国際会館（京都府京都市） 参加予定国数：80か国・地域 申請者：特定非営利活動法人STSフォーラム理事長　尾身幸次 **※国際委員会8月26日承認、同国際会議主催等検討分科会8月16日承認**	武内副会長	国際学術交流事業に関する内規39条
提案17	国内会議の後援をすること	会長	―	以下の会議について、後援の申請があり、関係する部等に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①岐阜大学70周年記念シンポジウム「野生動物管理の推進を担う地方大学の取り組み」 主催：岐阜大学応用生物科学部 期間：令和元年10月5日(土) 場所：岐阜大学講堂 申請者：岐阜大学応用生物科学部学部長杉山誠 **※第二部承認**	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ

				②シンポジウム「魅力ある生物教育を考える―生物離れ何が問題なのか―」 主催：生物科学学会連合 期間：令和元年10月5日（土） 場所：東京大学本郷キャンパス理学部科学本館５階講堂 参加予定者数：約200名 申請者：生物科学学会連合代表　小林武彦 **※第二部承認** ③第99回慶應医学会総会シンポジウム 主催：慶應医学会 期間：令和元年10月26日（土） 場所：慶應義塾大学医学部 参加予定者数：約100名 申請者：慶應医学会会長　天谷　雅行彦 **※第二部承認** ④サイエンスアゴラ2019 主催：国立研究開発法人科学技術振興機構 期間：令和元年11月15日（金）～17日（日） 場所：テレコムセンタービル、日本科学未来館及びシンボルプロムナード公園 参加予定者数：3000名／日 申請者：国立研究開発法人科学技術振興機構理事長　濵口　道成 **※科学と社会委員会承認** ⑤第7回コンテンツツーリズム学会 論文発表大会 主催：コンテンツツーリズム学会 期間：令和元年11月30日（土） 場所：東京経済大学第２号館大教室B101・B104教室 申請者：コンテンツツーリズム学会会長　増淵　敏之 **※第一部承認**		

Ⅱ　その他

	件名	資料（頁）
1.	**今後の総会及び幹事会開催予定** 次回幹事会は9月26日（木）13時30分開催	D(1)

提案１

【委員会及び分科会】
○委員の決定（新規１件）
（第一部人文・社会科学基礎データ分科会）

氏　　名	所　　属　・　職　　名	備　考
岡崎　哲二	東京大学大学院経済学研究科教授	第一部会員
佐藤　嘉倫	東北大学大学院文学研究科教授	第一部会員
藤原　聖子	東京大学大学院人文社会系研究科教授	第一部会員
本田　由紀	東京大学大学院教育学研究科教授	第一部会員
町村　敬志	一橋大学大学院社会学研究科教授	第一部会員
若尾　政希	一橋大学大学院社会学研究科教授	第一部会員

○委員の決定（追加１件）
（第一部国際協力分科会）

氏　　名	所　　属　・　職　　名	備　考
上杉　富之	成城大学文芸学部・大学院文学研究科教授・グローカル研究センター長	連携会員

【小委員会】
○委員の決定（新規１件）
（地域研究委員会人文・経済地理学分科会観光小委員会）

氏　　名	所　　属　・　職　　名	備　　考
石川　義孝	帝京大学経済学部教授	第一部会員
松原　宏	東京大学地域未来社会連携研究機構長・大学院総合文化研究科教授	第一部会員
伊藤　悟	金沢大学人間社会研究域教授	連携会員
小田　宏信	成蹊大学経済学部教授	連携会員
岡橋　秀典	奈良大学文学部教授	連携会員
田原　裕子	國學院大学経済学部教授	連携会員
中澤　高志	明治大学経営学部教授	連携会員
氷見山　幸夫	北海道教育大学名誉教授	連携会員
増田　聡	東北大学大学院経済学研究科教授	連携会員
宮町　良広	大分大学経済学部教授	連携会員
水内　俊雄	大阪市立大学都市研究プラザ教授・大学院文学研究科教授	連携会員
矢野　桂司	立命館大学文学部教授	連携会員
山川　充夫	福島大学名誉教授、客員教授	連携会員

吉田　道代	和歌山大学観光学部教授	連携会員

提案４

日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込み団体の概要

	団体名	概　　要
1	京都滋賀体育学会	本団体は、体育・スポーツに関する科学的研究や関心を高めること、学際的な交流を促進すること、体育・スポーツ科学を発展させること、研究で得られた知見を実践の場に応用することを目的とするものである。
2	グローバル人材育成教育学会	本団体は、グローバル人材育成の任にあたる教員の資質向上などを推進するものである。また、学術研究・教育の立場でグローバル人材の育成を通し、企業等との情報交換や相互理解を深める機会を積極的に提供し、広い立場からの人材育成にも努めるものである。
3	日本教科内容学会	本団体は、研究の対象を教員養成及び学校教育における各教科の教科内容とし、それらを教科の専門の立場と教育現場の授業実践の立場から捉え、「教科内容学」として体系性を創出することを目的とするものである。
4	日本子ども学会	本団体は、子どものことを考え、子どもの立場に立って、子どもの生活環境の中にあるすべてのモトやコトをデザインする”Child-Caring Design”の学際的・環学的な話し合いの場であり、人間科学としての「子ども学」を体系づけるものである。

5	日本赤外線学会	本団体は、社会の基盤となる先端技術から日常生活に直結する分野まで広く活用されている赤外線について、科学と技術の進歩に貢献し、その応用と普及を図ることを目的とするものである。
6	日本ポリアミン学会	ポリアミンは、多彩な生物活性を持つ生体分子であり、特別な機能の発見や産業応用等、今後の研究によってさらに人類の福祉に貢献できると期待される。本団体は、ポリアミン研究に関する情報発信、若手研究者の育成、多分野の研究者との交流促進を目指すものである。

提案５

公開シンポジウム「公認心理師の養成について」の開催について

１．主　催：日本学術会議心理学・教育学委員会健康・医療と心理学分科会

２．共　催：公益社団法人日本心理学会

３．後　援：なし

４．日　時：令和元年 9 月 13 日（金）13：20～15：20

５．場　所：立命館大学大阪いばらきキャンパス

６．分科会等の開催：なし

７．開催趣旨：　国家資格の養成は日本の大学の心理学史上で最も大きな変革のひとつである。養成の原理としては科学者–実践家モデルの実現ということが重要である。私たちはこれまで「公認心理師大学カリキュラム標準シラバス」を作成し，「公認心理師養成についてのアンケート」を実施した。また，『公認心理師養成大学教員連絡 協議会』（以下，公大協）を主催し，大学間での養成の情報を共有するネットワークを作った。公大協は いくつかの委員会を作り，大学・大学院での養成の問題点を明らかにし，今後のありかたを検討している。本シンポジウムでは，公認心理師を所管する厚生労働省の担当課長に公認心理師制度と養成の現状についてお話いただき，また各領域の問題点を明らかにし、５年後の制度見直しに向けて、①大学学部カリキュラム、②大学院カリキュラム、③現場実習という 3 点から議論したい。

８．次　第：

13:20　シンポジウムの企画趣旨説明

丹野義彦（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

横田正夫（日本大学心理学部教授、公益社団法人日本心理学会理事長）

鈴木伸一（日本学術会議連携会員、早稲田大学人間科学学術院教授）

13:30　公認心理師制度と養成の現状

厚生労働省　精神・障害保健課　課長　得津 馨(予定)

13:50　大学学部カリキュラム

箱田裕司（日本学術会議連携会員、京都女子大学発達教育学部教授）

岩原昭彦（京都女子大学発達教育学部教授）

14:10　大学院カリキュラム

熊野宏昭（早稲田大学人間科学学術院教授）

大月友（早稲田大学人間科学学術院准教授）

14:30　現場実習

長田久雄（日本学術会議連携会員、桜美林大学大学院老年学研究科教授）

小関俊祐（桜美林大学准教授）

14:50　総合討論

15:20　閉会

９．関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案６

公開シンポジウム「政治における「嘘」の問題」の開催について

１．主　催：日本学術会議政治学委員会政治思想・政治史分科会

２．共　催：日本政治学会

３．後　援：なし

４．日　時：令和元年 10 月 5 日（土）13:15～15:15

５．場　所：成蹊大学（東京都武蔵野市吉祥寺北町３丁目３－１）

６．分科会の開催：開催予定

７．開催趣旨：

昨今、「ポスト真実」がメディアを通じて政治を大きく動かすと言われるようになった。これに対しては、情報の正確さ・メディアに対する監視の必要が対策として提言されており、それは確かにデモクラシーを健全に保つためには不可欠の措置と言えるだろう。しかし政治学の立場からは、さらにその先を考える必要がある。情報の正しさとは別次元での、「デモクラシーの理想」「シティズンシップの物語」といったものを構築することが、デモクラシーをポピュリズムへ転化させないためには、重要ではないか。その問題を念頭に置きながら、社会に流布する「嘘」（イデオロギーも含めて）と、デモクラシーを支える精神との関係を改めて考えたい。

題材としては、まず政治における「嘘」の重要性を説いた古典的な思想家としてのニッコロ・マキァヴェッリ、20 世紀の日本と西洋において、「流言蜚語」や虚偽の問題を真剣に考察した理論家である清水幾太郎、ハンナ・アレントをとりあげて、相互の理論を比較し再検討しながら、現代におけるデモクラシーの可能性について討議する。

８．次第：

司会：齋藤純一（日本学術会議連携会員、早稲田大学政治経済学部教授）

13:15　報告①「マキァヴェッリと「嘘」」（仮題）
　　村木数鷹（東京大学大学院法学政治学研究科博士課程）
13:35　報告②「「流言蜚語」と「輿論」――清水幾太郎の昭和」（仮題）
　　趙星銀（明治学院大学国際学部専任講師）
13:55　報告③「アレントにおける嘘と民主主義の問題」
　　和田隆之介（外務省）
14:15　ディスカッション
15:00　コメント：苅部　直（日本学術会議第一部会員、東京大学法学部教授）

９．関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案７

公開シンポジウム「災害を科学と語り継ぎ未来を生きる
～伊勢湾台風の記憶をよみがえらせ、南海トラフ地震津波に備える」の開催について

１．主　催：日本学術会議科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会、日本学術会議土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会

２．共　催：なし

３．後　援：なし

４．日　時：令和元年 10 月 20 日（日）10:00～11:30

５．場　所：名古屋コンベンションホール 302 会議室（120 名収容）

６．分科会等の開催：開催予定なし

７．開催趣旨：
　将来の災害への備えには、過去の災害を科学的に検証しつつ、その記憶を語り継ぐ必要があります。
　2015 年第 3 回国連防災世界会議で採択された仙台防災枠組では、優先行動 1 として災害リスクの理解が掲げられ、経験・教訓・優良事例、訓練・教育の共有の必要性が訴えられています。2017 年 11 月に日本学術会議が開催した災害レジリエンス構築のための科学・技術国際フォーラムの提言、さらにその後の検討過程で、各国・各地域での防災へのよりよい科学的知見の反映のためには、良きファシリテーターが必要であることが明らかになっています。この機会に、伊勢湾台風や昭和東南海地震などの過去の災害の記録の科学的な検証を、それぞれの立場で防災を推進する方々がどう活用されているか、来たるべき南海トラフ地震津波やスーパー伊勢湾台風への対策にいかに生かすか、その活用を促すファシリテーターの役割、などについて参加者の皆様と考えていきます。

８．次　第：
司会　　川崎　昭如（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻特任教授）

10：00　開会挨拶（含む、本企画の背景紹介）
小池　俊雄（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM）センター長、東京大学名誉教授、政策研究大学院大学連携教授）

10：07　講演（学術）:「過去の災害を今の科学で振り返る」
山岡　耕春（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院環境学研究科教授、日本地震学会会長）

10：14　講演（市民）:「災害記録を生かした防災教育」
　　近藤　ひろ子（名古屋市港防災センター防災教育アドバイザー）

10：21　講演（企業）:「災害経験を生かした技術開発と実践」
　　調整中（東邦ガス株式会社）

10：28　講演（マスメディア）:「災害記録を生かしたわかりやすい情報伝達」
　　寺尾　直樹（NHK 名古屋放送局気象キャスター）

10：35　講演（学術）:「災害教訓の継承手法の国際的な共有」
　　阪本　真由美（兵庫県立大学准教授）

10：42　講演（行政）:「災害教訓を生かしたまちづくり」
　　酒井　康宏（名古屋市防災危機管理局長）

10：50　パネルディスカッション
　　進行：西川　智（日本学術会議特任連携会員、名古屋大学減災連携研究センター教授）
　　登壇者：講演者全員、フロアーとの質疑も含む

11：25　閉会挨拶
　　寶　馨（日本学術会議連携会員、京都大学大学院総合生存学館（思修館）学館長・教授）

11：30　閉会

９．関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催委員会・分科会委員）

＊本案は、防災推進国民大会 2019（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）のセッション企画です。

※6 月 27 日幹事会承認済みの案件について、主催を追加する等の
変更を加えたもの。

提案８

公開シンポジウム「岡崎「性暴力事件」から見えてきたもの
―学術に何ができるか―」の開催について

１．主　催：日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会、ジェンダー政策分科会、法学委員会ジェンダー法分科会、史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会

２．共　催： なし

３．後　援： なし

４．日　時：令和元年 10 月 20 日（日）13：00～17：00

５．場　所：日本学術会議大講堂

６．分科会等の開催：開催予定あり

７．開催趣旨： 平成 31 年 4 月、名古屋地方裁判所岡崎支部で一つの「無罪判決」が下された。当時未成年だった被害女性が、中学 2 年生から実の父親から性的虐待を受け続けてきたという事件に対するものである。この判決には、広範な人々から「違和感」が提起されている。本シンポジウムは、この「違和感」を多様な視点から検討することにより、日本社会に潜む性差別の深層に迫りつつ「学術に何ができるか」考えるものである。

８．次　第：
13：00 開会
開会挨拶・総合司会　遠藤　薫（日本学術会議第 1 部会員、学習院大学法学部教授）

第 1 部「岡崎性虐待事件」から見えてきたもの
性的虐待の実態と対応――「神奈川県児童相談所における性的虐待調査報告書」から
三桝　優子（神奈川県中央児童相談所虐待対策支援課）
岡崎事件判決について
園田　寿（甲南大学法科大学院教授）

岡崎事件をどうとらえたか
山田　不二子（認定 NPO 法人チャイルドファーストジャパン理事長）
山本　潤（一社 Spring～性被害当事者が生きやすい社会へ代表）
周藤　由美子　（性暴力禁止法をつくろうネットワーク共同代表）
第 1 部質疑応答　進行　柘植 あづみ （日本学術会議連携会員、明治学院大学社会学部 教授）

第 2 部　学術に何ができるか――岡崎事件を受けて

後藤　弘子（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院社会科学研究院教授）
宮地　尚子（医学、一橋大学大学院教授）
伊藤　公雄（日本学術会議第１部会員、京都産業大学現代社会学部客員教授）
第２部質疑応答　進行　中谷　文美（日本学術会議連携会員、岡山大学大学院社会文化科学研究科教授）

17:00　閉会挨拶　　小浜 正子　（日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授）
閉会

９．関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案９

公開シンポジウム「人工知能時代の放射線画像診断・病理診断と専門医のあり方」の開催について

１．主　催：日本学術会議臨床医学委員会放射線・臨床検査分科会

２．共　催：日本医学放射線学会、日本病理学会

３．後　援：国立研究開発法人日本医療研究開発機構、日本核医学会、頭頸部放射線研究会、日本神経放射線学会、日本臨床検査医学会、日本超音波医学会、日本組織細胞化学会、日本腹部放射線学会、日本磁気共鳴医学会、日本臨床衛生検査技師会

４．日　時：令和元年 10 月 28 日（月）13：00～17：30

５．場　所：日本学術会議講堂

６．分科会等の開催：なし

７．開催趣旨：人工知能 Artificial Intelligence (AI)が急速に進歩しつつあり、臨床医療に多大な影響を与えることが予想されており、大量の画像データを扱う放射線診断や病理診断には特に影響が大きいものと思われる。AI による支援が専門医の不足に悩む両分野にとって福音になることが期待される一方、専門医の役割や業務形態を変える可能性もあり、AI 診断の発達で診断専門医が不要になるとの声さえ聞かれることがある。AI に望まれる機能と AI 時代に向けた診断専門医の将来展望について、広く情報提供及び意見交換を行い、放射線画像診断・病理診断の方向性について示唆を提供することを目的として、シンポジウムを開催する。

８．次　第：(予定)

13:00　開会の挨拶
米倉　義晴（日本学術会議連携会員、福井大学名誉教授）

セッション１　座長　陣崎　雅弘（慶應義塾大学医学部放射線科学教室教授）

13:05～13:35　広域連携・分散統合による医学・医療の課題解決
末松　誠（日本医療研究開発機構（AMED）理事長）

13:35～14:00　医療画像ビッグデータ利活用を促進するクラウド基盤
合田　憲人（国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系教授）

セッション２　座長　山田　俊幸（日本学術会議連携会員、自治医科大学臨床検査部教授）

14:00～14:25　医療と Artificial intelligence (AI)
山本陽一朗（理化学研究所 革新知能統合研究センター病理情報学チームチームリーダー）

14:25～14:50　超音波診断における AI 開発の現状と課題
工藤　正俊（近畿大学医学部消化器内科教授）

14:50～15:10　（休憩）

セッション３　座長

井上　優介（日本学術会議連携会員、北里大学医学部放射線科学「画像診断学」教授）

15:10～15:35　日本医学放射線学会におけるAI開発の取り組みと課題

待鳥　詔洋（国立国際医療研究センター国府台病院放射線科診療科長）

15:35～16:00　放射線科におけるAIの進歩および放射線専門医の今後の在り方

小林　泰之（聖マリアンナ医科大学大学院医学研究科医療情報処理技術応用研究分野教授）

セッション４　座長

増田しのぶ（日本学術会議連携会員、日本大学医学部病態病理学系腫瘍病理学分野教授）

16:00～16:25　病理分野におけるAIプログラムの現状と課題

佐々木　毅（東京大学大学院医学系研究科次世代病理情報連携学講座特任教授）

16:25～16:50　病理診断におけるAIと専門医の在り方

森井　英一（大阪大学大学院医学系研究科
病態病理学・病理診断科教授）

16:50～17:30　総合討論

座長　青木　茂樹（日本学術会議連携会員、順天堂大学大学院医学研究科放射線医学教授）

安井　弥（日本学術会議連携会員、広島大学大学院医歯薬保健学研究　　科長）

17:30　閉会の挨拶

遠藤　啓吾（日本学術会議連携会員、京都医療科学大学学長）

＊開会の挨拶、閉会の挨拶は未確定です。

９．関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）

提案１０

公開シンポジウム「百寿社会に生き残るための情報学的生存技術」
の開催について

１．主　催：日本学術会議情報学委員会環境知能分科会

２．共　催：芝浦工業大学

３．後　援：ＩＥＥＥ東京支部（予定）他（調整中）

４．日　時：令和元年 11 月２日（土）13:00～17:00

５．場　所：芝浦工業大学芝浦キャンパス　3 階 301 教室

６．分科会等の開催：開催予定

７．開催趣旨： 2007 年に日本で生まれた子供の 50%が 107 歳まで生きるとの海外研究がある。官邸主導の人生 100 年時代構想会議にて超長寿社会におけるリカレント教育や人材採用、社会保障などの政策論議も始まっている。百歳を超えるセンチナリアン(百寿者)も含めた社会システムをデザインするには、人材を中心とした政策だけでは十分ではない。センチナリアンの体力・知力を補完し、かつ次世代若手のコミュニケーションを活性化させる医学的・工学的支援のための科学・技術研究の進展と、若者と 100 年を超える人生を送るであろう子供達の QOL を支えるコミュニティ形成が不可欠である。特に、若者と子供の 100 余年に渡る睡眠から覚醒までの日常生活と経済的・精神的なライフスタイルのデザイン、それらを支える社会生活とエコシステムのデザインを統合的に行うには、日本学術会議を横断して取り組む必要がある。
上記を踏まえ、この度日本学術会議 情報学委員会 環境知能分科会では「百寿社会に生き残るための情報学的生存技術」というシンポジウムを開催する運びとなった。提言に向け、百寿社会の生きにくさを解決するため情報学的生存技術について識者、一般の方々を交えて議論する。

８．次　第：

13：00～13:15　開会挨拶

萩田　紀博（日本学術会議第三部会員、大阪芸術大芸術学部教授）

13：15～13:30　講演１「情報空間と物理空間の距離ギャップから見た百寿社会の多様性」

土井　美和子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構・監事）

13：30～14:00　講演２　「百寿社会に向けてのこれまでの活動と展望」

伊藤　一彦　（ＢＣＣ株式会社 代表取締役社長）

14：00～15:15　講演　「情報学的生存技術」

西田　眞也（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院情報学研究科教授）

橋本　隆子（日本学術会議連携会員、千葉商科大学副学長）

平田　貞世（日本学術会議連携会員、芝浦工業大学大学院理工学研究科准教授）、他

環境知能分科会メンバーからの情報学的生存技術の個別発表

15：15～15：30　（　休憩　）

15：30～17：00 パネルディスカッション

（司会）土井　美和子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構監事）

パネリスト:伊藤　一彦　（ＢＣＣ株式会社 代表取締役社長）

西田　眞也（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院情報学研究科教授）

橋本　隆子（日本学術会議連携会員、千葉商科大学副学長）

平田　貞代（日本学術会議連携会員、芝浦工業大学大学院理工学研究科准教授）

17:00　閉 会

萩田　紀博（日本学術会議第三部会員、大阪芸術大学芸術学部教授）

９．関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

提案１１

公開シンポジウム「国連の持続可能な海洋科学の 10 年　－One Ocean の行動に向けて－」の開催について

１．主　催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学分科会、地球惑星科学委員会ＳＣＯＲ分科会

２．共　催：（公財）笹川平和財団海洋政策研究所

３．後　援：日本海洋政策学会、日本海洋学会、日本動物学会、日本藻類学会他予定

４．日　時：令和元年 11 月６日（水）9：30～17：00

５．　場　所：笹川平和財団海洋政策研究所国際会議場（東京都港区虎ノ門 1-15-16）

６．分科会等の開催：両分科会ともに開催予定

７．開催趣旨：

海洋は、大気中の熱および二酸化炭素の吸収能力が大きく、人間活動に起因する気候変動の緩和に役立ってきた。しかし近年、海洋生態系は温暖化、酸性化、貧酸素化の進行により危機的状況が迫っている。さらに海洋プラスチックごみ汚染の深刻化が加わり、人間社会の在り方に大きな影響を及ぼす海洋問題に対峙し解決に使える時間は刻々と減っている。このような現状認識を、日本学術会議は、2019 年 3 月 6 日に S20 共同声明「海洋生態系への脅威と海洋環境の保全 - 特に気候変動及び海洋プラスチックごみについて - 」に取りまとめ、海洋問題に対して科学の果たす役割の重要性を世界に発信した。これに続く 6 月の G20 大阪サミットでは追加的な汚染をゼロとする目標および海洋プラスチックごみ対策実施枠組の合意がなされた。

現在進行中の国連の「持続可能な開発目標 SDGs」では 17 目標のうちの目標 14 に海洋の持続可能な利用と保全の重要性と緊急性があげられている。この海洋問題の重要さから、さらに国連は 2021 年からの 10 年を「持続可能な開発のための海洋科学の 10 年」とし、海洋科学の共通の枠組みを構築し、海洋科学コミュニティーおよびそれを超える社会の結集を呼び掛けた。各国がこの 10 年に向かう準備を始める中で、我が国がホストとなり、海洋科学の 10 年に関する北太平洋地域のワークショップが 2019 年 7 月 31 日から 8 月 2 日まで東京で開催されている。

我が国が、世界第 6 位の排他的経済水域と世界で最も高い海洋生物多様性を有することを考えれば、この 10 年において世界を先導する行動を取ることは必然と言えるが、そのための我が国の動きは現状では遅れている。海洋科学コミュニティーは、海洋政策および社会科学等との連携を深め、早急かつ強力に産官学民の協働を具体化して海洋の諸問題の解決を目指す時である。

本シンポジウムでは、SDGs および「海洋科学の 10 年」の実行と目標達成に向けて、その中心となる産学官民の協力をいただき、今後 10 年間の海洋科学の具体的方向を議論する。

８．次　第：（予定）

9：30　開会

窪川かおる（日本学術会議連携会員、帝京大学 SIRC 客員教授）

9：35　挨拶
春日文子（日本学術会議連携会員、Future Earth 国際事務局日本ハブ事務局長）
植松光夫（日本学術会議連携会員、東京大学大気海洋研究所名誉教授）

9：55　特別講演
国連海洋科学の 10 年の実施に向けた課題
道田　豊（東京大学大気海洋研究所教授）

10：20　第 1 部：気候変動予測の 10 年
気候変動現象の多様性とこれからの気候変動予測
升本順夫（日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授）
変わりゆく極域の物質循環と生物応答：現状と将来展望
原田尚美（日本学術会議連携会員、海洋研究開発機構地球環境部門センター長）
パネルディスカッション
司会：安中さやか（海洋研究開発機構地球環境部門研究員）
角田智彦（海洋政策研究所主任研究員）
益田晴恵（日本学術会議連携会員、大阪市立大学教授）、石井雅男（気象庁気象研究所海洋・地球研究部部長）、江淵直人（北海道大学低温研究所教授）、升本順夫、原田尚美（日本学術会議連携会員、海洋研究開発機構地球環境部門センター長）

13：30　第 2 部：海洋生態系保全の 10 年
海洋生態系の全球モニタリングへ向けて：Ocean Obs’19 後の展望
千葉早苗（海洋研究開発機構地球環境部門グループリーダー）
海洋の生物生産と環境動態
古谷研（日本学術会議第二部会員、創価大学大学院工学研究科教授）
パネルディスカッション
司会：川井浩史（日本学術会議連携会員、神戸大学内海域環境教育研究センター教授）、
前川美湖（海洋政策研究所主任研究員）
古谷研（日本学術会議第二部会員、創価大学大学院工学研究科教授）、千葉早苗（海洋研究開発機構地球環境部門グループリーダー）、鈴村昌弘（産業総合研究所研究グループ長）、他２名を予定

15：50 総合討論
司会：白山義久（日本学術会議連携会員、海洋研究開発機構特任参事）
道田豊、講演者、パネリスト

16：55　閉会
山形俊男（日本学術会議連携会員、海洋研究開発機構上席研究員）

９．関係部の承認の有無：第二部、第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案１２

日本学術会議北海道地区会議主催講演会「スポーツと学術（仮題)」
の開催について

１　主　催：日本学術会議北海道地区会議

２　共　催：北海道大学

３　日　時：令和元年 11 月 9 日(土) 13:30～17:00
４　会　場：北海道大学学術交流会館小講堂　(札幌市北区北 8 条西 5 丁目)
５　開催趣旨

スポーツと学術に関する検討は、日本学術会議でも何度か行ってきた。しかし、これまで北海道地区会議では、この課題に関する学術講演会の開催はなかった。

2020 東京オリンピック開催をひかえ、この時期に、このテーマを北海道地区の学術講演会として設定し、改めて、スポーツと学術、そして「まち・ひと・しごと」の観点も含めて、スポーツを通したアカデミアの地域貢献について、北海道地区で議論する場を提供したい。北海道においても、地域に根差した様々なスポーツ活動が行われているが、加えて、2030 年前後の札幌オリンピックの再誘致の問題もある。こうしたメガスポーツイベントと地域の関わりを議論したい。必ずしも、光の部分だけはなく、メガスポーツイベントによる環境への影響、経済効果とそのリバウンドと言った陰の側面にもついてもアカデミアからの問題提起も想定している。さらに、スポーツの持つ幾つかの倫理的課題--健康増進と一方で過剰な負荷による身体障害の問題などについても情報提供の場としたい。

６　次　第

司会　寳金　清博（日本学術会議第二部会員、北海道地区会議代表幹事・北海道大学名誉教授）

(1) 開会挨拶
13:30～13:40　渡辺　美代子（日本学術会議副会長）
13:40～13:45　寳金　清博(日本学術会議第二部会員、北海道地区会議代表幹事・北海道大学名誉教授)

(2) 講演
13:45～14:15　スポーツ障害を科学する　－野球肘の科学－（仮題）
岩崎　倫政（北海道大学大学院医学研究院教授）
14:15～14:45　メガスポーツイベントと地域貢献（仮題）
寳金　清博(日本学術会議第二部会員、北海道地区会議代表幹事・北海道大学名誉教授)

14:45～15:00　休憩

15:00～15:30　演題、講演者（調整中）
15:30～16:00　演題、講演者（調整中）

(3) 総合討論
16:00～16:55　座長（未定）

(4) 閉会の挨拶
16:55～17:00　加藤　昌子（日本学術会議第三部会員、北海道大学大学院理学研究院教授）

（下線のある登壇者は、主催地区会議の会員・連携会員）

提案１３

公開シンポジウム「高等学校への心理学教育の導入をめぐって」の開催について

１．主　催：日本学術会議心理学・教育学委員会心理学教育プログラム検討分科会

２．共　催：公益社団法人日本心理学会

３．後　援：未定

４．日　時：令和元年 12 月 7 日（土）13：00～17：00

５．場　所：慶應義塾大学三田キャンパス第 1 校舎 121 教室
（〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45）

６．分科会等の開催：開催予定

７．開催趣旨：
心理学を初等中等教育に導入するための議論は，日本学術会議心理学・教育学委員会心理学教育プログラム検討分科会において，第２２期から議論をしてきた重要な課題である。折りしも，２０２２年から，新学習指導要領の中で，高校の「倫理」「公共」に心理学的内容が本格導入されることとなり，大きな展開が期待されている。そこで，心理学教育プログラム検討分科会委員と日本心理学会 教育研究委員会 高校心理学教育小委員会委員を中心に話題提供と指定討論をおこない，心理学や隣接分野の研究者，高校の教員などを交えて，今後の心理学全体としての取り組みを考えていきたい。

８．次　第：
13：00　司会挨拶
楠見　孝（日本学術会議連携会員、京都大学大学院教育学研究科教授）

13：10　話題提供１：高校教科の中の心理学
菅原　ますみ（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授）

13：50　話題提供 2：心理学の考え方と方法論
池田まさみ（十文字学園女子大学　人間生活学部人間発達心理学科教授）

14：30　話題提供 3：学習の自己調整のための心理学的知識
市川　伸一（帝京平成大学　特任教授、東京大学客員教授）

15:10－15：30　（　休憩　）

15：30　総合討論
（指定討論者）遠藤利彦（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

唐沢かおり（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

17：00　閉会

９．関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案１４

公開シンポジウム「政治への「参画障壁」をいかに乗り越えるか」の開催について

１．主　催：日本学術会議政治学委員会政治過程分科会

２．共　催：明治大学特定課題研究ユニット政治制度研究センター

３．後　援：なし

４．日　時：令和元年 12 月 21 日（土）14：00～17：00

５．場　所：明治大学駿河台キャンパス・リバティタワー1123 教室

６．分科会等の開催：開催予定

７．開催趣旨：くじ引きで議員を決めるというアイデアがある。それは極端としても、政治への「参画障壁」は低いに越したことはない。しかし実際には、この障壁は私たちの前に高く立ちはだかっている。たとえば、各種議会をはじめとして政治分野における女性の参画は著しく少ない。それどころか、自治体議会では立候補者が議員定数に達しない事態すら生じている。これら「参画障壁」の原因をどう分析し、今後の政治のあり方や議会改革にいかにつなげればいいのか。本公開シンポジウムではこれらの点につき、報告と討論を通じて考察を深めていく。

８．次　第：

14：00　開会あいさつ
西川伸一（日本学術会議第一部会員、明治大学政治経済学部教授）
14：05　報告 1「政治分野における男女共同参画の要因と効果」
小林良彰（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授）
14：45　報告 2「自治体議会の現状と課題－「なり手不足」と議会改革－」
牛山久仁彦（日本学術会議連携会員、明治大学政治経済学部教授）
15：25－15：35　（　休憩　）
15：35　討論 1　石上泰州（日本学術会議連携会員、平成国際大学法学部教授）
15：50　討論 2　中谷美穂（日本学術会議連携会員、明治学院大学法学部准教授）
16：05　討論に対する報告者のリプライ
16：25　総合討論
16：55　閉会あいさつ　西川伸一（日本学術会議第一部会員、明治大学政治経済学部教授）
17：00　閉会

９．関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案１５

公開シンポジウム「次世代統合バイオイメージングと数理の協働の展望」
の開催について

１．主　催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 IUPAB 分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会

２．共　催：日本学術振興会

３．日　時：令和２年３月 23 日（月）13：00～17：40

４．場　所：日本学術会議講堂

５．分科会の開催：開催予定

６．開催趣旨：近年、バイオイメージング技術と数理・情報科学の間の interdependent な高度融合による情報計測技術が開発されている。膨大な数の試料のハイスループット計測を可能にする実験オートメーションや、莫大量の計測データを処理し、モードの異なるデータを関連づける機械学習など最先端情報技術に基づいた計測の迅速化などが進められている。また、各種ハイスループット実験技術、高解像度イメージング技術、そして計測のロボット化が進めば、莫大な量の多次元データが生成される。そのため、これらの大規模データを実験条件まで含めて保全する統合的データベースが必要であり、数理的データ解析と一体化した生命動態データベースの拡充も進める必要がある。本公開シンポジウムでは、先端的バイオイメージング計測分野の研究者に加え、数学、物理学、情報科学などの幅広い分野の研究者を一堂に会し、我が国における「イメージング技術と数理・情報科学の高度融合により、生命科学においてパラダイムシフトに繋がるか？」を議論する。

７．次　第　（予定）：
コーデイネーター
小松崎民樹（北海道大学電子科学研究所教授）
諏訪牧子（日本学術会議連携会員、青山学院大学理工学部教授）
原田慶恵（日本学術会議連携会員、大阪大学蛋白質研究所教授）

13：00-13：10　開会の挨拶
原田慶恵（日本学術会議連携会員、大阪大学蛋白質研究所教授）

13：10-14：50　講演・・・バイオ計測と画像解析技術
座長：原田慶恵（日本学術会議連携会員、大阪大学蛋白質研究所教授）
講演予定者：
合田圭介（東京大学大学院理学系研究科教授）
永井健治（日本学術会議連携会員、大阪大学先導的学際研究機構教授）
横田秀夫（理化学研究所光量子工学研究センターチームリーダー）

大浪修一（理化学研究所生命機能科学研究センターチームリーダー）

14：50-15：00　休憩

15：00-16：40　講演・・・数理・情報科学と計測の高度融合
座長：諏訪牧子（日本学術会議連携会員、青山学院大学理工学部教授）
講演予定者:
佐藤いまり（国立情報学研究所コンテンツ科学研究系教授）
鷲尾隆　　（大阪大学産業科学研究所教授）
北川源四郎（日本学術会議第三部会員、東京大学数理情報教育研究センター特任教授）
瀬々潤　　（株式会社ヒューマノーム研究所代表取締役社長）

16：40-16：50　休憩

16：50-17：30　総合討論
モデレーター：小松崎民樹（北海道大学電子科学研究所教授）
パネリスト：
合田圭介　（東京大学大学院理学系研究科教授）
永井健治　（日本学術会議連携会員、大阪大学先導的学際研究機構教授）
横田秀夫　（理化学研究所光量子工学研究センターチームリーダー）
大浪修一　（理化学研究所生命機能科学研究センターチームリーダー）
佐藤いまり（国立情報学研究所コンテンツ科学研究系教授）
鷲尾隆　　（大阪大学産業科学研究所教授）
北川源四郎（日本学術会議連携会員、東京大学数理情報教育研究センター特任教授）
瀬々潤　　（株式会社ヒューマノーム研究所代表取締役社長）

17：30-17：40　閉会挨拶
有田正規（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授）

８．関係部の承認の有無：第二部承認
（下線の講演者等は、主催分科会委員）